

2016年度第2四半期業績のご報告

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社

2016年8月12日

I . EAJ事業内容のご説明

EAJとは？

日本エマージェンシーアシスタンス(EAJ)は、お客様が海外へ渡航されたり海外で生活される折に、何かでお困りになったり、何かしらの支援が必要となった際に、それが世界中の「いつ、どこであっても」、アシスタンスというサービスの提供を通じて事態を解決へと導いてゆく会社です。

例えば、お客様が海外渡航中に病気や怪我に遭われた場合、たとえご本人が言語、医療制度さらには社会環境面等でのギャップで対応できなくても、EAJが適格な医療機関の紹介、診療予約、通訳提供といった受診支援を行うことにより、お客様は、信頼できる水準の医療サービスを安心して受けることができます。

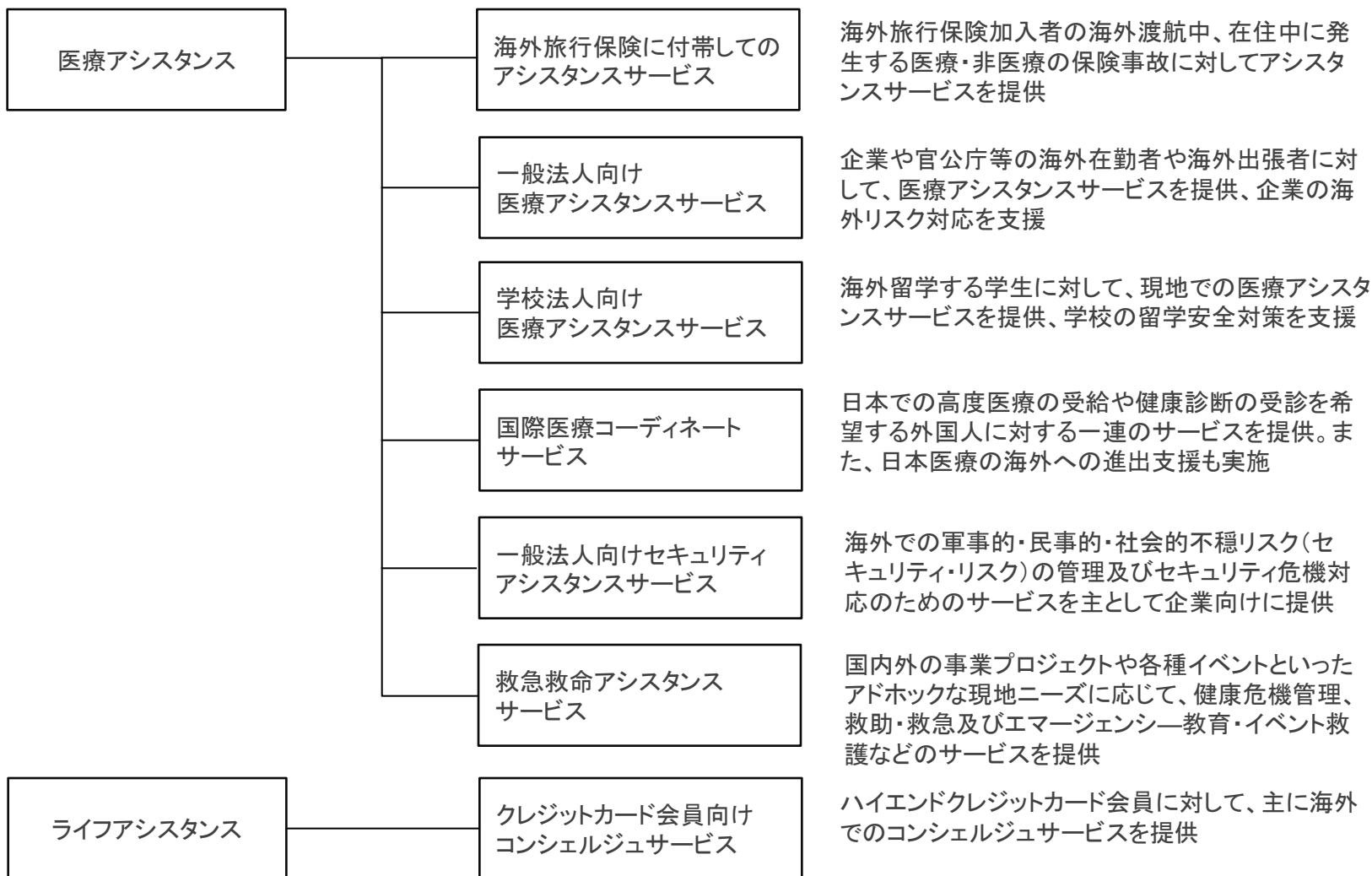
また、海外のレストランやエンターテインメントの予約、あるいはお買い物支援などのコンシェルジュ・サービス(ライフアシスタンスサービス)の提供により、海外での時間を「より楽しく」、「より快適に」お過ごし頂くためのお手伝いもしております。

EAJは、このような医療を始めとする緊急対応アシスタンスやライフアシスタンスの提供を通じて「アシスタンスでお客様の世界を広げる」ことをミッションに、24時間365日休むことなく活動しています。

当社事業

事業

展開する主なサービス概要



EAJのネットワーク網

- 7ヶ国に海外センターを配置（● 米国、中国、タイ、シンガポール、英国、フランス、バングラデシュ）
- 拠点数は全世界で12カ所、グループ要員数は315名
- 世界各国で提携関係にある12,264件の医療機関と4,738件の海外プロバイダーを活用しサービスを提供



※プロバイダーとは当社がアシスタンス業務において協力を依頼する機関を指します。

EAJ ビジネス4つの強み

① ジャパンスタンダードのサービス

- ・ジャパンスタンダードとは、品質には絶対に妥協しないというコミットメントと日本固有の思いやりの心が融合して作り出される高度のサービスであるとEAJは考えます。
- ・日本の心をもってお客様の期待を良く理解し、異文化への造詣も深いコーディネータが経験を積んだ専門家の適切な支援を受けてサービス提供します。
- ・「医療渡航支援企業(※1)」として訪日外国人にも「思いやりの心」に根ざした日本標準のサービスを提供するインバウンド・アシスタンスのリーディングカンパニーです。

② プロフェッショナルクオリティ

- ・厳しいトレーニングと実務経験に裏打ちされたスキル、そして高い使命感を有するコーディネータが世界各地で24時間365日スタンバイのうえ、お客様の期待を超えるサービスの提供に力を尽くします。医療アシスタンスでは、国際的な医療や保険に関する幅広い知識を持った多言語対応のコーディネータが対応します。ライフアシスタンスでは、国際的なライフ・スタイルのニーズに関する広い知見と高いコンシェルジュマインドを備えた多言語対応のコーディネータが対応します。

※1 「医療渡航支援企業認証制度」は、日本政府の成長戦略の一環として、来日して治療を受けようとする外国人が安心して医療サービスに関する相談や受診の支援が受けられるよう、一定の基準を満たした質の高い支援サービスを提供できる企業に日本政府が”お墨付き”を与える制度です。

EAJ ビジネス4つの強み

③ワンストップでアシスタンスを提供

- ・緊急第一報の受付から、医療機関での受診、診療経過のモニター、さらには帰国搬送まで、必要なアシスタンスを連続した同一のプロセスで提供することにより高度に安定した品質のサービスを提供することができます。
- ・セキュリティアシスタンスと医療アシスタンスをセットで提供することができ、これにより医療とセキュリティという企業にとっての二大ビジネスリスクへの統合的ソリューションを可能にします。

④グローバルネットワーク

- ・世界中の医療機関及び役務提供機関との提携を通じて構築された広範で信頼性の高いサービスネットワークが「世界中のいつ、どこであっても」提供可能なアシスタンスを実現しています。
- ・軍事・諜報・公安といった領域での高度なプロフェッショナルが必要とされるセキュリティ関連サービスも、国際的な人脈に基づくセキュリティ専門会社(※2)との業務提携を通じて提供されています。

※2 当社はHill & Associates社、ユナイテッド・ヘルスケア・グローバル社、Spartent社といった国際的なセキュリティリスクマネジメント会社と提携しております。

Ⅱ. 2016年度第2四半期連結累計期間の決算報告

第2四半期の決算業績サマリー

- 売上高 1,334百万円(前年同期: 1,346百万円)
営業利益 95百万円(前年同期: 78百万円)
経常利益 62百万円(前年同期: 77百万円)
当四半期純利益 40百万円(前年同期: 63百万円)
- 売上高は1,334百万円と順調に推移。
 - 医療アシスタンス事業の売上減(前年同期比1.8%減)は第1Qにおける官公庁からの受注額の減少によるものであり、第2Qは概ね堅調に推移。
 - ✓ 2016年第2Qの海外出国者数は回復の兆しが見られ、対前年同月比で増加し、当社のアシスタンスサービスに関する売上高(ケース売上)は前年を上回った。
 - ✓ 法人・大学・セキュリティ売上は好調であった。
 - ✓ 外国人患者受入事業は前年同月比で売上が増加した。
 - ライフアシスタンス事業の売上は前年同期比で3.9%増。
 - ✓ 事業は順調に推移し、サービス提供数が増加したため増収増益であった。
- 費用に関しては、円高による海外センターへの支払額の減少、「オペレーショナルエクセレンス」の実践による適正人員の配置、ITの活用によりコスト抑制に努め、営業利益は95百万円(前年同期比21.7%増)となった。
- 経常利益は、海外医療機関への立替金に為替差損が発生したこと等により62百万円、当四半期純利益は40百万円となった。

第2四半期および直近のトピックス

- **上期業績利益は計画を大幅に上回った。**

円高により海外出国者数が増加するという当社にとって追い風の環境で、シェアの拡大に支えられて、医療アシスタンス売上は堅調に推移した。

医療渡航支援企業に認証されたことで認知度と信頼が増し、外国人患者受入事業も好調であった。

円高により海外センターへの支払いが抑えられ、アシスタンスオペレーションで競争優位を得る「オペレーショナルエクセレンス」を実践することでコスト抑制に努めた。

上記により、第2四半期の業績は売上高は若干計画を下回ったものの、利益は大幅に計画を上回った(25ページ参照)。

- **セキュリティリスクが高まり、当社事業への関心が高まった。**

7月1日にバングラデシュのダッカで、14日にはフランスのニースでテロが発生し、15日にはトルコで軍事クーデター未遂事件が起きた。このようなセキュリティリスクの高まりにより当社の危機管理サービスに対するニーズが法人・大学で高まった。

- **「医療の国際展開」を積極的に推進。**

6月には日本の医療を海外に紹介する取組みとして、国立研究開発法人国立国際医療研究センターが厚生労働省から委託された「平成28年度医療技術等国際展開推進事業」の受託事業者採択され、バーレーン王国における医療従事者の支援を実施している。

- **イベント救護サービスの提供開始**

社内の複数の救急救命士・看護師、社外の救護員のネットワークを生かして、スポーツイベントや、コンサートなどの娯楽イベントにおける救護活動を開始した。

- **リオオリンピックで医療アシスタンスサービスを提供**

国際的大手メーカーのオリンピック期間中の医療アシスタンスを受注し、有事の際にサービスを提供する。

セグメント別業績ハイライト

- 医療アシスタンス事業は、トータルの売上は減少したものの海外出国者数が増加し、アシスタンスサービスに関する売上（ケース売上）は前年同期比で増加し、営業利益は増加した。
- 医療アシスタンス事業における外国人患者受入に係る売上（インバウンド売上）も堅調に推移した。
- ライフアシスタンス事業は売上・利益ともに増収増益だった。

（単位：百万円）

	前年同期		第2四半期実績	
	売上高	利益	売上高	利益
医療アシスタンス事業	1,137	195	1,117	226
ライフアシスタンス事業	208	54	216	60
調整額※	-	△171	-	△190
セグメント合計	1,346	78	1,334	95

※ 調整額とは、各報告セグメントに配分していない全社費用のこと。

※ セグメント利益の合計額は連結損益計算書の営業利益と一致している。

第2四半期連結貸借対照表

連結BSは当四半期純利益増加による営業CFの増加があり、CFが潤沢であるため借入金を返済した。

(単位:百万円)

	2015末 (構成比)	第2Q実績 (構成比)
資産合計	2,048 (100%)	2,018 (100%)
流動資産	1,751 (86%)	1,756 (87%)
固定資産	296 (14%)	262 (13%)
負債合計	1,379 (67%)	1,357 (67%)
流動負債	1,255 (61%)	1,266 (63%)
固定負債	124 (6%)	91 (5%)
参考:借入金残高	864 (42%)	796 (39%)
純資産合計	668 (33%)	660 (33%)

資産

- 営業キャッシュフローの増加による現金及び預金の増加
- 医療アシスタンスサービスに関わる立替金の回収

負債

- 借入金の返済

純資産

- 当期純利益が増加
- 円高による為替換算調整勘定の減少

Ⅲ. 各種施策の取組み状況のご説明

2016年全社重点事業目標の遂行実績

全社重点事業目標

進捗状況

オペレーショナルエクセレンスの追求

- ・損保引受業務だけでなく法人・大学にも迅速かつ効果的に対応するよう社内の体制を整備。
- ・コールモニタリングの徹底や人材交流による海外センターとの連携強化。
- ・感謝の声・クレームの共有化により顧客の方向を向いた営業の実践。

リエンジニアリングの追求

- ・高機能電話システムにより全世界センターを1つのヴァーチャルな拠点として扱うオペレーションを実践し、サービス品質向上、効率化を追求。
- ・全社的なリエンジニアリングの継続により、全業務について少数精鋭での業務処理体制を構築。
- ・各部署毎で収支管理を行ない、全社員が利益とコストを意識して活動。

事業基盤の横展開による新規事業の獲得

- ・海外危機管理へのニーズの高まりに対応するため企業・大学に対する危機管理支援を強化。
- ・社内の救急救命士・看護師などの有資格者によるイベント救護・僻地への駐留業務を開始。
- ・バングラデシュ、タイ等子会社のリソースを利用した情報収集・コンサルティング業務の検討開始。

各種施策に関する主要NEWS RELEASE

時事通信ロンドン支局主催のトップセミナーで 当社代表取締役社長 吉田一正が講演

時事通信ロンドン支局主催のトップセミナーで
当社代表取締役社長 吉田一正が講演

2016年5月17日に、時事通信ロンドン支局主催のトップセミナーにて、当社代表取締役社長の吉田一正が講演しました。(会場:ロイヤル・オーバーシーズ・リーグ)

当セミナーは時事通信ロンドン支局が在英日系企業・団体トップの方達を対象として、各専門分野における第一人者や政財界の要人を講師として招聘し、ランチセミナー形式で年9回開催されているもので、1977年1月から続いている歴史のあるセミナーとなります。

ノリで昨年発生したイスラム過激派による無差別テロ事件以降、いつ、どこで同様の事件が発生しても不思議ではない危険な時代を迎えているとの危機感が、在ロンドンの日系企業や団体にも高まってきており、そういった中、時事通信社から危機対応のプロである当社に講演依頼があり、今回吉田が講演する運びとなりました。

今回の講演では予想を上回る100以上の在英企業・団体が出席。満席の大盛況で、危機管理に対する関心の高さが実感されました。

セミナーでは「海外での危機対応 —アシスタンスオペレーションの実際(Crisis Response in Foreign Countries - Assistance Operations in Practice)」との演題にて、実際のアシスタンスサービスの内容説明をするとともに、テロや政治的混乱、自然災害、突発事故による負傷や急病など、社員の命にかかわる緊急事態に巻き込まれた際にどう対応すべきか、特に社会制度や、医療水準、言語など、すべてが日本とは異なる海外で、グローバル企業がやるべき危機対応の「重要なポイント」について、講演しました。

多数の参加者から、「非常に興味深く、大変勉強になった」との声をいただきました。

当社は今後もこのようなセミナー活動を実施することで、海外リスクマネジメントに関する情報提供を行うとともに、海外に進出する企業・団体を支援して参ります。



講演の様子

平成28年度 医療技術等国際展開推進事業研修 実施機関への公募採択に関するお知らせ

NEWS RELEASE



2016年6月23日

各位

会社名 日本エマーゼンシーアシスタンス株式会社
代表者名 代表取締役社長 吉田 一正
(コード番号:6063 東京証券取引所JASDAQ)

平成28年度 医療技術等国際展開推進事業 研修実施機関への公募採択に関するお知らせ

日本エマーゼンシーアシスタンス株式会社(略称:EAJ、本社:東京都文京区、代表取締役社長:吉田一正、URL:<https://emergency.co.jp/>)は、このたび国立研究開発法人国立国際医療研究センターが厚生労働省から委託された「平成28年度医療技術等国際展開推進事業」の(1)我が国の医療政策や社会保障制度等に見識を有する者や我が国の医療従事者、医療関連産業の技術者等の関係国への派遣・研修事業、及び(2)諸外国の医療従事者や保健・医療政策関係者等の受入・研修事業の受託事業者に採択されましたのでお知らせ致します。

当社が実施する事業の具体的内容は以下の通りです。

● バーレーン王国における医療従事者教育支援プロジェクト

当社はバーレーン王国へ日本の先端医療技術を利用した医療サービスをバーレーン王国へ導入することを目的とし、その技術移転の担い手となる現地医療従事者の育成を支援することでバーレーン王国との協力関係強化に貢献してまいります。

今回の事業についても、これまでの中東地域における経験を生かしながら、日本の医療サービスの認知度を高めることで、アウトバウンド事業(医療技術・機器等の輸出)及びインバウンド事業(外国人患者の受入サポート等)需要を喚起するとともに、バーレーン王国の医療の高度化に貢献し、日本の医療の国際展開を支援いたします。

■ 本件に関するお問合せ先
管理部 IR室
電話:03-3811-8121

以上

HPに「イベント救護」のページを追加

- 野球、マラソンなどのスポーツイベントや、コンサート、花火大会などの娯楽イベントで、救護活動を実施。
 - 近隣の医療機関情報や周辺環境の調査
 - 緊急計画・救護体制の構築、マニュアル化
 - 救護員の配置、救出や応急処置、医療機関までの誘導
 - 主催者側への報告
- EAJのイベント救護の特長
 - 救護対象は、イベント参加者だけでなく、観客を含む全体を対象とすることが可能である。
 - プロフェッショナルな救護員(※)の配置
 - システムを活用したリモート体制で、迅速な救護活動を実現
 - イベントに参加する外国人に対する、支援・サポートを実施

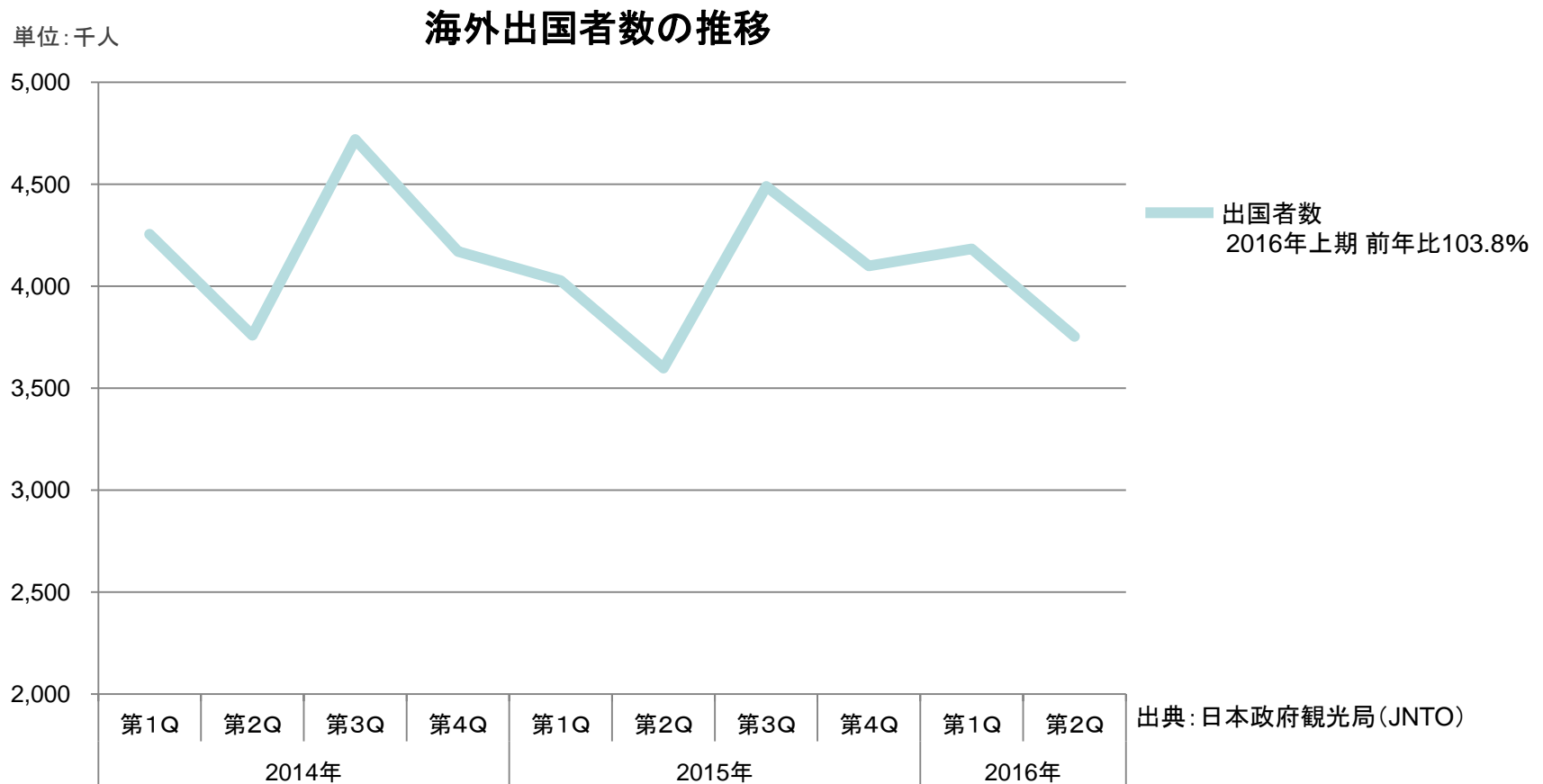
※EAJは社内に救急救命士、看護師の医療国家資格の有資格者を抱えるとともに、社外にも救急救命士、看護師を潤沢に提供できる独自のネットワークを保持しています。



IV. 2016年の業績環境

海外出国者数の推移

- 海外出国者数の増加に伴い、医療アシスタンスに対するニーズが増加している。
 - 円高の進展等の理由により、海外出国者数は若干回復の兆しが見えてきている。



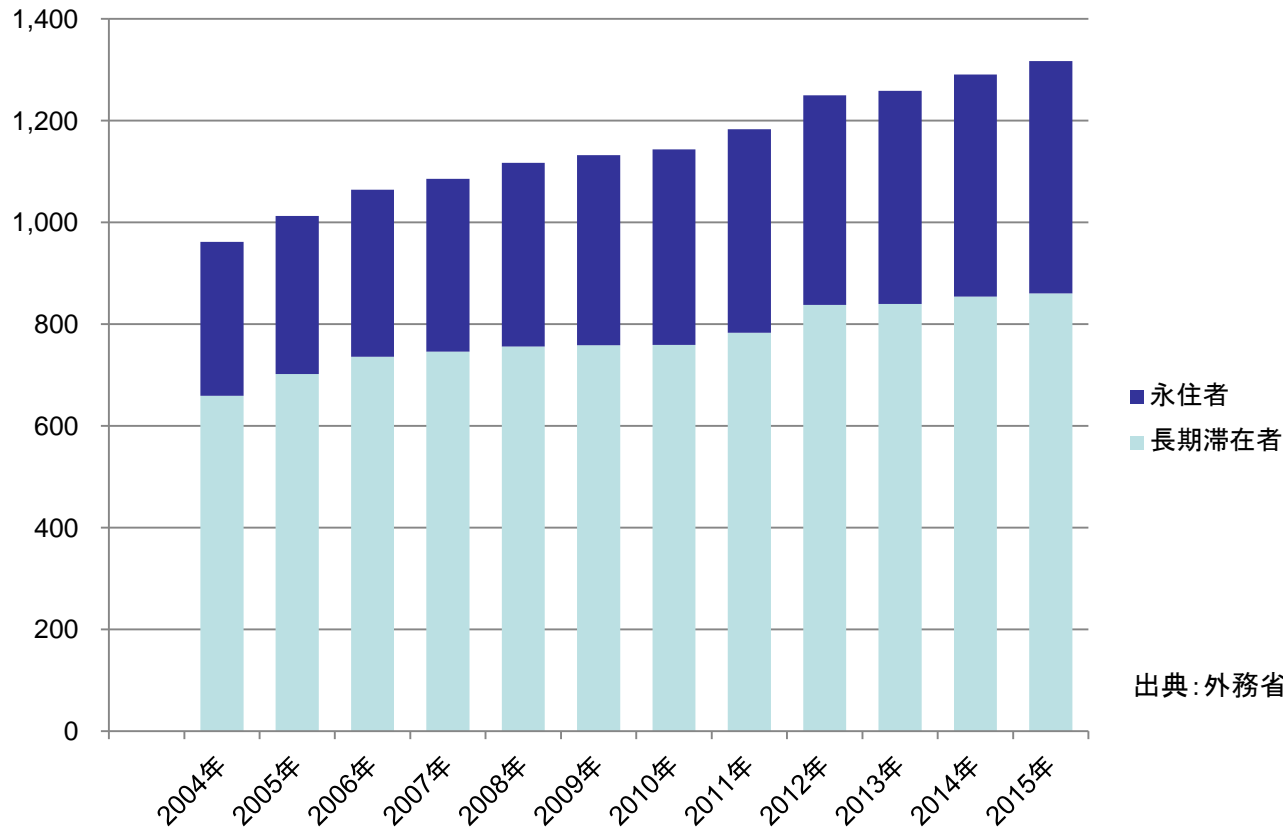
海外在留邦人数の推移

- 海外在留邦人数は1,317千人(※)であり、年々増加している。
- 海外進出している日本企業の総拠点数は71千拠点(※)であり、年々増加傾向である。

※ 2015年10月時点。いずれもカウントしてから過去最高の数値。

単位：千人

海外在留邦人数推移



出典：外務省 海外在留邦人数調査統計

海外における医療リスク

- 海外での邦人の死亡原因のトップは病気(疾病)であり、約8割を占める(※)。
- 海外の医療では以下の問題に直面し、また日本と医療事情やシステムが異なる。

※2014年海外邦人援護統計より



●海外医療で直面する問題点

- ▶日本との医療水準の違い
- ▶医療システム・スタイルの違い
- ▶コミュニケーションの難しさ
- ▶高額医療費
- ▶医薬品、器材、設備への信頼感(輸血、二次感染、偽薬等)
- ▶気候の変化による疲労や脱水
- ▶その国独特の感染症、風土病
- ▶大気汚染による呼吸器疾患 等



●医療システムの違い

	日本	海外
ホームドクター制度	無	あり (一般医と専門医)
病院のシステム	Closed System (勤務医は病院で雇用)	Open System (医師は独立採算、病院の施設を借りて診察)
予約	予約以外も診療	予約制
診察料	保険診療	自由診療 (診察料が医療機関ごとに異なる)
会計	総合窓口で一括	各窓口で個別
救急車	無料	有料

高まる海外セキュリティリスク

●海外セキュリティリスクが多様化・高度化・複合化している。

- ・7月1日にバングラデシュの首都ダッカでテロ事件が発生し、28人が死亡し、日本人7人が犠牲となる。
→在外公館が所在し、基本的に警備が嚴重である地区で発生した(テロの高度化)。
- ・7月14日にはフランスの南部・ニースにおいて、花火の見物をしていた人々の列にトラックが突っ込むテロが発生し、84人が死亡、202人が負傷した。
→単独犯によるローンウルフテロであり、インパクトを大きくするソフトターゲットが標的となった(テロの多様化)。
- ・7月15日にはトルコで軍事クーデター未遂事件が起きた。民間人を含め、死者は290人に及んだ。
→軍部の一部勢力による武カクーデターによりクーデター勢力と正規軍との戦闘状態へと発展した(複合的リスク)。



●企業や大学は海外へ派遣する社員や留学生に対する安全配慮義務があり、危機管理担当者及び組織としてセキュリティリスクに対する備えが必要

- 効果的で信頼できるプロフェッショナル・リソースに基づきセキュリティ・リスクを管理し、
- 具体的な危機管理体制を構築し運用する必要がある。



●アシスタンス会社の利用が効果的かつ合理的である。危機管理に対する備えができる。

- セキュリティリスクに関する正確な情報を継続的に収集し、リスクが現実化した場合の脅威を予見できる。
- 脅威が社員・学生、自社や大学自体に及ぼすリスクを回避するためのマネジメントを実行できる。
- 万が一危機が発生した場合にはこれに適切に対応し、被害を極小化できる。

インバウンド事業について

- インバウンド事業の売上は医療ツーリズム、緊急医療対応型アシスタンスともに増加傾向にある。
- 医療ツーリズムの課題は日本の高度医療の認知度の低さにある。
→中国内で最大級の医療ポータルサイト「就医160」との業務提携等を活かし、日本の医療ツーリズムと当社サービスの広告宣伝を今後も積極的に世界に向けて実施していく。
- 訪日外国人への緊急医療対応の課題は海外旅行保険に未加入の外国人に対して、代金回収をどう担保するかである。
→保険会社やカード会社と協力して外国人へ緊急医療を提供する仕組み作りを急ぐ。

インバウンドの種類	ケース	当社の対応	実績
医療ツーリズム (高度医療受診の紹介)	高度先進医療の受診 ・がん重粒子線治療 ・内視鏡 ・循環器、再生医療 ・人間ドッグ 等	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関コンサルテーション ・来日から帰国までのアレンジメント ・医療滞在ビザの取得サービス ・24時間365日のコールセンターサービス ・通訳・翻訳、支払代行サービス 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療ビザ身元保証機関リストの第1号 ・国内で初めて医療渡航支援企業に認証
訪日外国人への緊急医療対応	訪日外国人が病気や怪我をした場合	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な国内医療機関の紹介 ・通訳・翻訳、支払代行サービス ・医療機関への支払方法相談 	以下の場合にサービス提供 <ul style="list-style-type: none"> ・海外のアシスタンス会社からの依頼 ・国内で加入できる旅行保険の患者の依頼 ・医療費の支払いが担保された患者の依頼

中東における活動について

- 6月に「平成28年度 医療技術等国際展開推進事業研修実施機関」へ公募採択され、バーレーン王国における医療従事者教育支援プロジェクトを実施している。
 - ▶日本の先端医療技術を利用した医療サービスをバーレーン王国へ導入し、技術移転の担い手となる現地医療従事者の育成を支援することでバーレーン王国との協力関係強化に努める。



●アラブ諸国との関係を強化

官公庁委託事業を通じて得られた中東とのパイプを活かして当社事業に結びつくビジネスを展開していく(中東の患者に対する日本の高度医療の紹介・医療事業支援コンサルティング等)。

- 2016年6月～
バーレーン王国における医療従事者教育支援プロジェクトを実施
- 2016年4月～
カタール国と日本の間で再生医療製品の普及に向けた国際間細胞輸送実験に成功
- 2011年から実施
アラブ首長国連邦(UAE)アブダビ首長国と我が国の医療分野における協力強化事業を実施

出典 Google Earth

女性の活躍について

EAJでは多数の女性が活躍しています。政府が提唱する「すべての女性が輝く社会作り」に賛同し、働く女性を応援し、今後も多くの女性に活躍の場を提供していきます。

●当社の特長

▶女性社員が多い

基幹業務であるアシスタンスコーディネーターには女性が多く、女性社員比率は70% (2016年度6月末データ) です。

▶女性の管理職が多い

女性管理職比率は41% (2016年度6月末データ) と高い比率であり、また、役員が1名、監査等委員として就任しています。

▶女性のワークライフバランスを支援

育児休業制度 (2015年度利用者は6名) と育児短縮勤務制度 (2015年度利用者は5名) を設け、仕事と育児を両立できるような環境を整えております。



V. 2016年業績予想について

2016年の業績予想について

- 第2四半期累計利益の第2四半期予想利益に対する予算達成率はいずれも100%を超えた。
- 一方、今後の業績の状況は現段階では以下の点で不透明であり、業績予想の修正は今回は行わない。
 - ▶テロ等の頻発による海外不安により海外出国者数の大幅な減少が懸念される
 - ▶一部の不採算契約の更新を行なわなかった事による減収の影響が未確定である
 - ▶為替に関して一部ヘッジをしており、円高差益をフルに受けず、医療機関への立替払い用外貨建て預金に為替差損が発生するが金額が未確定である

(単位:百万円)

	第2Q累計実績	第2Q予想	第2Q達成率 (2Q累計実績/ 第2Q予想)	通期予想	通期進捗率 (2Q累計実績/ 通期予想)
売上	1,334	1,382	96.5%	2,735	48.8%
営業利益	95	23	313.0%	90	106.3%
経常利益	62	19	226.3%	80	77.7%
四半期(当期) 純利益	40	15	166.7%	55	71.8%

下期外部環境について

業績に与える影響	2016年下期の外部環境		
	円高	テロの増加 (アジア、欧州に限らず)	企業間競争の激化
ポジティブ要因	・出国者数が増加するが、一方でテロの影響が懸念材料 ・海外センターへの支払額が減少	企業・法人の危機管理意識の高まりによりアシスタンス事業に対する需要増大	比較により当社のサービス優位性をアピールでき、ビジネス拡大のチャンス
ネガティブ要因	訪日外客数と医療ツーリズムの為の訪日患者は減少	海外出国者数が大きく減少	新規企業の参入 ライバル企業との競争激化
不確定要因	海外出国者数の増加と訪日外客数の減少のどちらが大きくなるかが不透明	海外出国者数にどの程度影響を与えるかが不透明	不採算契約の解消による売上減少



当社の主要売上である医療アシスタンス売上(特にケースフィー)が想定しにくい。

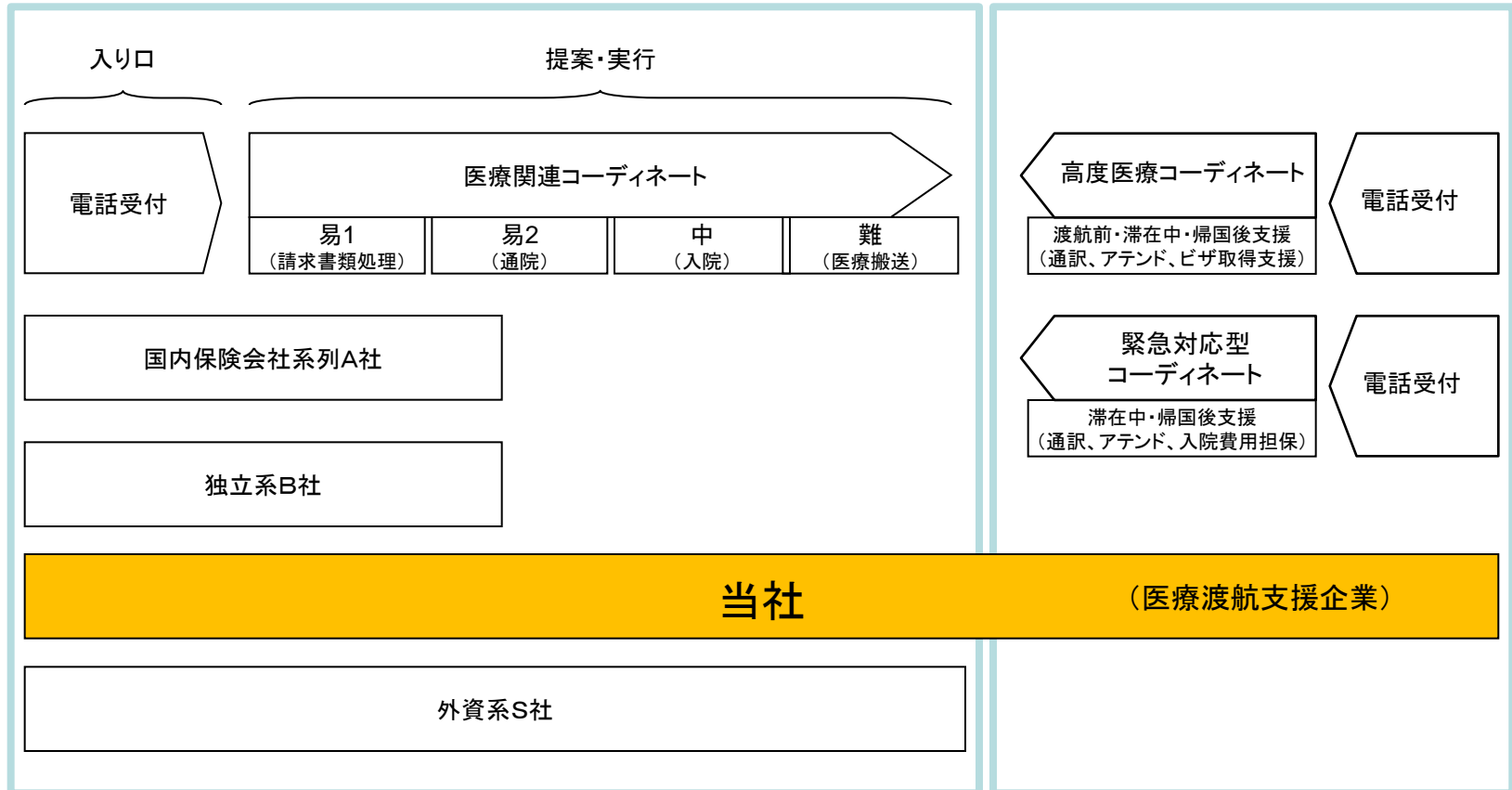
VI. 当社のビジネスモデルについて

当社の医療アシスタンス事業領域

- 当社の医療アシスタンスはアウトバウンドでは医療搬送などの難易度の高い医療アシスタンスサービスを提供する点、インバウンドサービスにも力を入れている点で他社と大きく異なる。

アウトバウンド (日本人に外国の医療機関を手配)

インバウンド (外国人に日本の医療機関を手配)



当社の業界内ポジショニング

- 世界の大手アシスタンス会社はロードアシスタンスなどの事業の多角化により売上高1,000億円以上規模である。
- 当社はまず医療アシスタンスとその周辺事業を強化して業界内で競争優位を獲得し、顧客満足を最大化する。
- 上場しているアシスタンス会社は世界でも稀である。

医療アシスタンス事業における
業務範囲 & 資本関係による区分

医療アシスタンス事業を展開する事業者

- 医療アシスタンスサービスをフルラインナップ・ワンストップでサービス提供
 - 日本エマージェンシーアシスタンス
 - 外資系S社
 - 世界のグローバルプレーヤー4社
※S社と4社が大手アシスタンス会社
- 医療アシスタンスの1次受けをメインに実施しているアシスタンス会社
 - 国内保険会社系列A社
 - 独立系B社

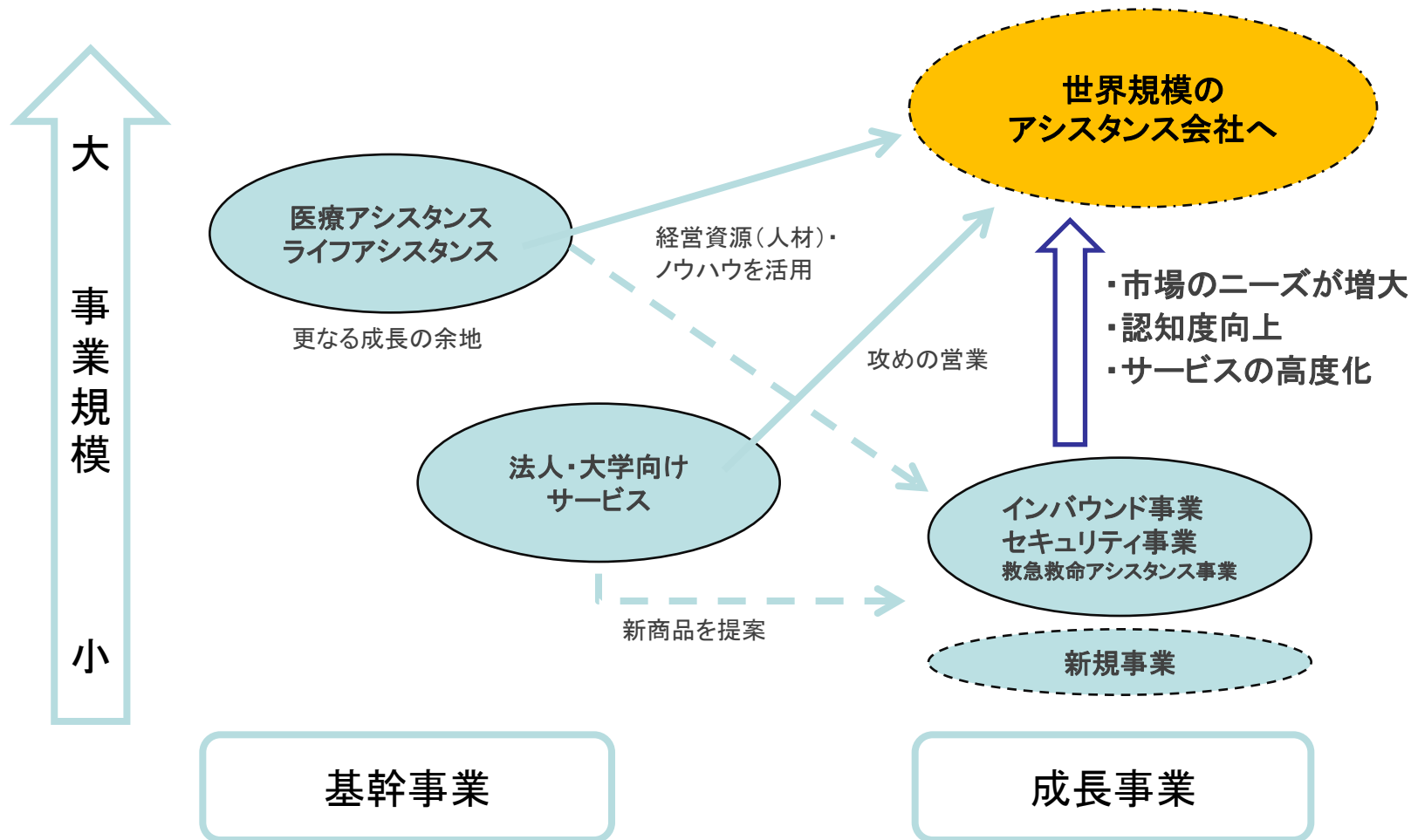
フルラインナップ
コーデイネイト業務
医療アシスタンス事業の展開
1次受け中心
コールセンター

 外資系S社	世界のグローバルプレーヤー4社
独立系B社	国内保険会社系列A社

独立系 保険会社系
資本関係

EAJの事業展開イメージ

基幹事業である医療アシスタンス事業及びライフアシスタンス事業のノウハウを活用して成長事業（インバウンド・セキュリティ・救急救命アシスタンス事業等）を伸ばす



VII. アシスタンス会社のサービス

海外進出企業・学校法人が抱えるニーズ

- 海外進出企業・学校法人は、海外で起こる様々なリスクに対応しなければならない。
- 海外リスクのマネジメントをプロフェッショナル企業に外注することは選択肢の1つである。

法人・学校法人のお客さまが抱える具体的なニーズ

- ▶ 各国現地支社・留学生の要望で、現地病院受診の仕組みを構築しなければならない。世界各国の駐在員・留学生に均一のサポート体制が必要
- ▶ 政情不安な地域で、有事の際に具体的な対応ができる手段を探している。危機対応プランを策定、事前に本社・本校・現地にて共有して、事態に備えたい。
- ▶ 独自に駐在員・留学生向けサービスを検討している。各国の状況に即したサポート体制を提供できる仕組みを、社内・校内に導入したい。
- ▶ 例えばオリンピックで協賛会社として開催前から多くのスタッフを現地に送り、開催期間中にゲストを招待する。危機管理や医療の手厚いサポートを提供できる方法は無いか(※)。
- ▶ 人事・労務・安全管理担当として、政情不安やインフラ不足の地域で、有事の際にどうするべきか、現地の医療情報収集と重症対応時の計画を事前にシミュレーションしておきたい。

当社が提供するサービス



医療アシスタンスサービス



セキュリティサービス



場所や期間を特定した医療
アシスタンスサービス

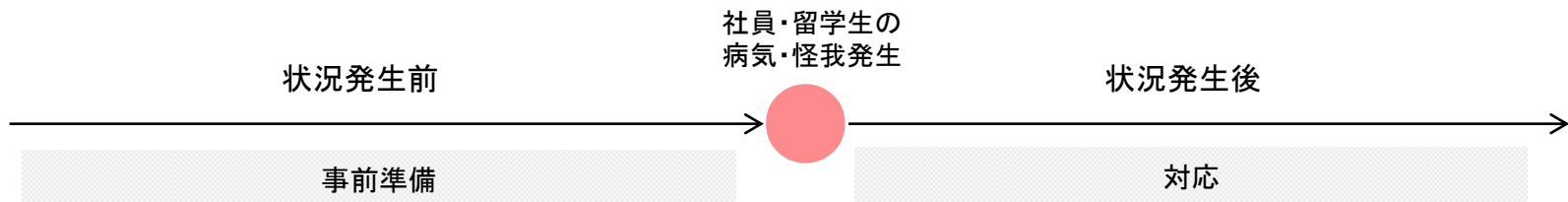


コンサルティングサービス

※EAIはリオオリンピックで国際的大手メーカーに医療アシスタンスサービスを提供しております。

企業・学校法人向けサービス

EAJは会員に対する業務遂行において適確かつ迅速なアシスタンス手配が遂行出来るよう、現地サービス体制、セキュリティ体制等、移送・搬送ルート等を可視化するシステムを利用して万全の体制を構築します。



事前コンサルティングサービス

- 世界各国の医療事情報告
- 世界各国の医療機関情報の提供
- 世界各地からの緊急搬送ルート・シミュレーション
- 特定地域のアシスタンス調査・配置



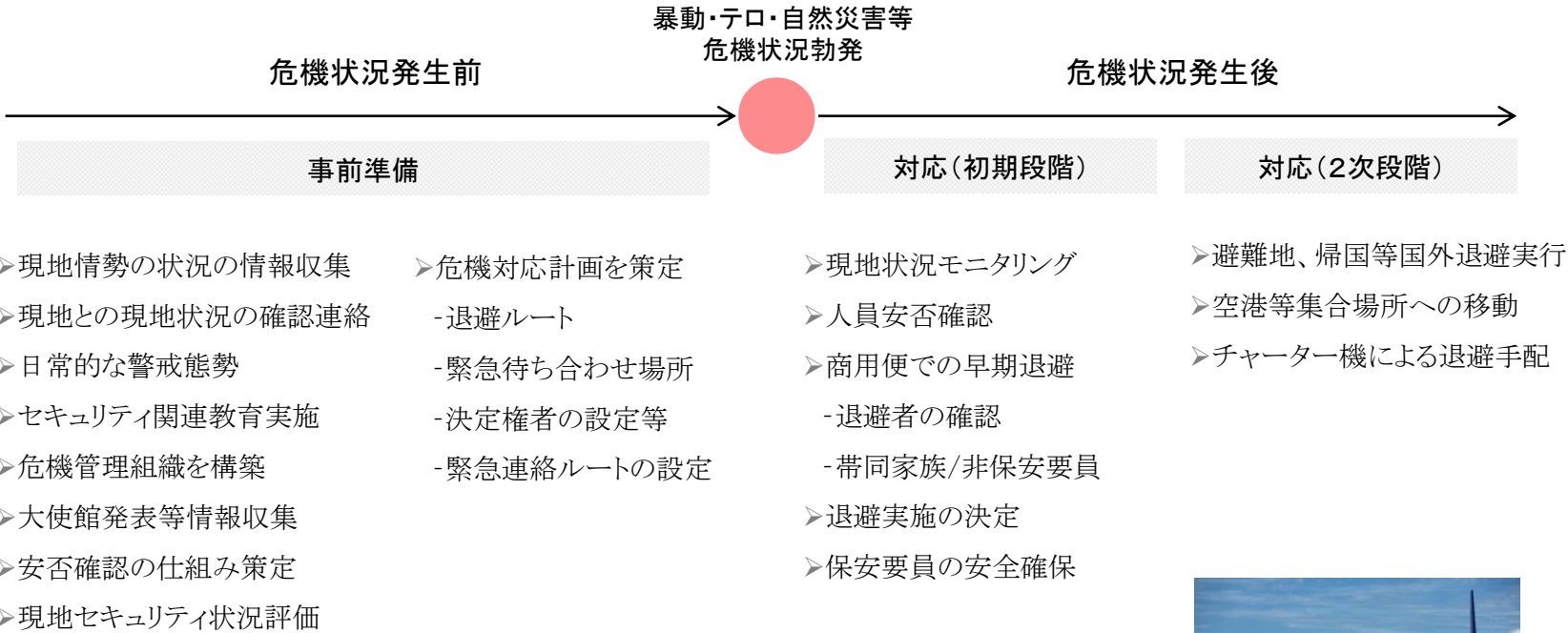
海外24時間医療アシスタンスサービス

- 海外における現地病院の手配
- 医療通訳アレンジ
- 入院費・治療費の支払保証・支払
- 日本人専門医による治療状況のモニタリング・
- セカンドオピニオン提供
- 医療者の派遣
- 緊急医療搬送(近隣医療先進国・日本への搬送)




セキュリティサービス

暴動・テロなどへの対策には、専門的かつ煩雑な準備が必要となります。EAIJは危機状況発生前のコンサルティングを中心に、実際の対応に至るまでのセキュリティサービスを提供いたします。



8月23日(火)に投資家向け説明会を実施

EAJ投資家向け説明会を開催




Emergency Assistance Japan

日本エマージェンシーアシスタンス㈱
Tel: 03-3811-8160 Fax: 03-3811-8183

EAJ投資家向け説明会

1. 日 時：2016年8月23日(火) 14:30～ 16:30(開場: 14:15～)
2. 会 場：文京シビックセンター26階「スカイホール」
東京都文京区春日1丁目16番21号
TEL: 03-5803-1100
3. <プログラム>
「EAJ 第2四半期決算報告と当社のアシスタンス事業」
～主として個人投資家向けに当社の事業内容と最近の業績について詳しくご説明します。～

吉田 一正 日本エマージェンシーアシスタンス株式会社
代表取締役社長



4. 参加費：無料
5. 参加方法：参加ご希望の方は以下のいずれかの方法で事前に参加申し込みをして下さいませようお願いします。
 (1) 当社HPの「お問い合わせ」ページから「IRに関するお問い合わせ」を選び、メール送信する。(※)
 (2) メールアドレス(ir-info@emergency.co.jp)に①氏名、②連絡先TEL、③会社名を記載してメール送信する。(※)
 (3) 下記の申込用紙に必要事項を記載の上、03-3811-8159宛にFAX送信する。
 ※メール本文に「投資家向け説明会参加希望」と記載してください。

問合せ先 03-3811-8121 管理部 IR担当 水島

申込希望の方は当社HPの最新情報をご覧ください。
<https://emergency.co.jp/>

アシスタンスで お客様の世界を広げる

本説明資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらの不確実性には、業界ならびに市場の状況、金利、為替変動、国内外の事業に影響を与える政府の法規制といった国内及び国際的な経済状況などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

また、当資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定はご自身の判断において行われるようお願いいたします。

Copyright ©Emergency Assistance Japan Co., Ltd. All Rights Reserved.

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社